

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800269
法人名	医療法人 吉祥会
事業所名	グループホーム 美楽居
所在地	鹿児島県出水市平和町347番地 (電話) 0996 - 63 - 8000
自己評価作成日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院・老健と併設し、医療面での安心をいただいています。また、月1回の施設内研修・外部研修など職員が積極的に参加し、常に学びを大切に、現在介護福祉士の資格取得者が87%いる。また、それぞれのスタッフが、隣接する老健と共に立ち上げてある委員会に所属し、リスクマネジメントや、接遇、感染など、それぞれの委員会で活動し、ホームの質の向上に努めている。また、当施設の理念である「個人の意向を十分に尊重し、尊厳ある日常生活を肘するために良質なサービスを提供します」を実現するために、毎年目標を定め、具体的な実践計画を立てている。スタッフも離職が少なく、和気藹々とした雰囲気の中で、皆様やご家族から、笑顔や明るさに対しておほめの言葉を多く頂戴している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、法人の母体医療機関及び老人保健施設に隣接して建てられている。24時間の医療連携体制により利用者・家族の医療面での安心に繋がっており、重度化等の場合も、法人内及び系列の施設等を含めて利用者に応じた適切な選択が可能である。
- ・地域行事への参加や地元商店の利用、法人の夏祭り等で住民と交流しており、市のボランティア養成・認知症サポーター養成講座の講師など、事業所の力を活かした地域貢献にも積極的に取り組んでいる。
- ・法人に設置された各委員会の活動及び内外の研修受講により職員のレベルアップを図り、質の高いサービスの実践に取り組んでいる。ホームでも日常的に職員の気づきメモや外部からのお褒めのことばを共有することで職員の意識付けを図り、サービスの向上に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、毎年、理念の実践に向け目標を作り実践・評価・反省を行っている	理念は事業所内に掲示しパンフレットにも掲載している。毎日朝礼で唱和し、昼食後のミーティングでケアについて振り返っている。毎年、理念に沿った目標を設定し評価も行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、買い物、ドライブ、ラン伴参加など地域との交流を目指している	文化祭・桜祭り等の地域行事への参加や地元での買い物、法人の夏祭りで地域住民と交流している。芸能ボランティアや中学生の職場体験学習を受け入れたりしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ラン伴への参加・認知症サポーター養成講座の出前講師など認知症の理解を広げられるように発信している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族・消防署・市の職員・社会福祉協議会の職員・地域の方など各方面の方を交え、意見をいただいている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。ホームから行事やヒヤリハット・事故報告等を行い、意見交換をしている。ホームの事故防止に対する取り組み等について、地域への情報発信の機会になっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>認知症キャラバンメイトへの参加・運営推進会議への出席など協力関係を築いている</p>	<p>市の担当者とは運営推進会議での意見交換や窓口での相談等で連携を図っている。市及び地域包括支援センター主催の講座に講師として協力したり、研修会への参加等、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎年、身体拘束や高齢者虐待についての研修に参加し、身体拘束はもちろん、スピーチロックなどの無いように全員でケアを行っている</p>	<p>法人の研修会に参加し、身体拘束についての理解を深めている。「禁句&マナー集」を読み合わせを行い、ことばの拘束に注意したり、日中の玄関の施錠をしない等、職員間の声かけと目配りで連携し、制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の勉強会等、虐待について学ぶ機会を多く持ち、言葉による虐待など無いように注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度は実際に利用されている利用者はいないが、管理者として研修等で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、ゆっくりと家族の思いや、不安を理解できるよう心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設向上委員会を立ち上げ、家族・利用者の思いの把握できるように心がけ、頂いた意見に関してはすぐに対応できるように話し合っている	利用者には日常の生活の中で要望等を聞いている。家族には運営推進会議や面会時に思いや要望等を聞いて対応に努めており、リハビリの要望に沿った施設の選択を助言した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	個別に面接を行い、意見や提案の把握し、出来る限り反映できるようにしている	昼食時のミーティングや記録時に職員の意見を聞いており、提案された意見等は、1週間の試行期間を設けて反映させている。個別には、管理者から声掛けしたり年1回は面談をしている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	面接時に、業務に関して自己評価・管理者による評価などを話し合い、人事考課につなげている		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	今年度は毎月の施設内研修のほかに、外部研修で2つを選択し全員が受講した。また、介護福祉士や支援専門員の資格取得へのチャレンジも応援している		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	いずみ川薩支部グループホーム連絡協議会で、研修、交流会など企画し、また、管理者・職員間での交流にも努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>認知症の為に自分の思いを伝えられない方が多いので、見守りや観察を行いながら、本当のその方の思いの把握に努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ケアプランの作成時や普段の面会時にも会話を多く持ち、家族の思いの把握や不安の軽減に努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族本人だけではなく、前施設や担当ケアマネ、主治医など多くの方からの情報収集に努めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をする。一緒に体操を行う。一緒に日向ぼっこをするなど、出来るだけともに行うことで家族的な空間を作り出そうと考えている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、遠方の方には電話などできるだけ会話を多くすること、また、行事などへの参加を呼び掛けるなど共に過ごしていただける場面を多く作れるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の文化祭への参加、馴染みの方が面会来やすい雰囲気づくり等心がけている	地域行事への参加や毎朝の新聞・活け花・園芸などを継続したり、家族の協力で美容室や墓参り・法事・外食に出かける等、入居前の生活や馴染みの人との関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の好きな方、おしゃべり好きの方、気の合う方、合わない方などスタッフ全員が把握し、関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が今でも運営推進会議に参加されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の為になかなか表現できない方が多いので、スタッフ全員で観察を行い、情報を交換しながら思いの把握に努めている	利用者一人ひとりの思いを日常の会話の他、昼食時・入浴・ドライブ・夜勤帯などで把握したり、表情や仕草等から推測して、得られた情報は、ミーティング時に職員間で話し合っ本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、前施設、ケアマネ等からの情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフで状態の観察や情報の共有を行い現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人に担当者がおり、担当スタッフがアセスメントや、プランの原案を作成し、計画作成担当者と共にプランを作成している。また、カンファレンスには、家族や主治医なども出席し話し合っている	担当スタッフが、事前に家族の要望等を把握して短・長期計画を作成し、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回実施し、カンファレンスで家族・主治医も参加して話し合い、必要時及び1年に1回介護計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護経過記録への記入、3か月ごとのモニタリングなど常に職員間で情報を共有している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診への付添や、ドライブ、必要に応じて手紙を書く支援などその方にとって必要なことを支援している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>11月のラン伴には102歳の利用者の方が参加され、少し寒い日だったが、本人も家族も大変喜ばれていた</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連絡は毎日とっている。また、他病院への受診時は家族が無理な時等は付添を行っている</p>	<p>全員が以前から協力医療機関のかかりつけである。月2回の往診及び24時間医療連携体制により適切な医療が受けられるよう支援している。専門医等の他科受診は家族対応を基本としているが、必要時はホームでも受診同行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	医療連携を契約している病院とは常に連絡が取れる状態であり、相談や報告を行っている		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時の情報提供、入院期間の情報、担当ソーシャルワーカーとの連携などに努めている		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化した場合の指針を表記し、入居時に説明を行っている。また、ターミナルやリスクに関しても主治医を交え確認を行い、書面で承諾を得ている	契約時に、重度化等の場合の対応について指針を基に説明している。重度化等の場合は、主治医を交えて家族に説明し、他の利用施設等の選択についても話している。家族の意向に沿って支援しており、看取りの事例がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時のマニュアルを作成し、張り出している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>連絡網の作成・年二回の避難訓練等を行っている。立地的に水害、がけ崩れ等の心配はないが、台風や地震に備え協力体制を強化していきたいと考えている</p>	<p>消防署の立ち会いで年2回、避難訓練を昼夜想定で実施している。運営推進会議を兼ねて実施し、地域住民へ避難後の見守りを担当してもらっている。非常時の備蓄は法人で一括して確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は必ず、ドアを閉める。誘導の声かけは他者の前では大きな声で行わないなど徹底して行っている	法人で毎年研修している。入室時のノックや個々に応じてのトイレ誘導をさりげない声掛けで行う等、羞恥心に配慮し誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間ごとの誘導ではなく、本人の表情やしぐさに応じた誘導、入浴も曜日を決めるのではなく、本人が決定できるように声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度一日の流れは決めているが、その日、その時によって利用者のペースに合わせた支援を第一に考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の洗面時は鏡を見てもらう。着替えは可能な方は自分で選ぶ、又は一緒に選ぶ。散髪援助、爪切り、髭剃り等支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の挨拶、テーブル拭き、食器の片づけなど分担を行っている	職員が献立を立てて、毎日食材の買い出しをしている。個々の力を活かして、テーブル拭き、食事の声掛け、行事の挨拶をしている。行事食や誕生会などで季節感を取り入れ、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの食事や栄養バランス、食事の形態等その方に合わせ援助している。またその日のカロリー計算を行い、栄養バランスも考えてメニューを創っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけや支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとでなくその方に合わせた誘導を行っている	排泄チェック表は使用せず、利用者の様子等を観察し、その人に合わせたトイレ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を支援しており、必要時は複数での介助をしている。夜間は、睡眠確保を優先し、パット交換やポータブルトイレも使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行い、適度な運動や、食事内容、必要に応じて下剤の服用など便秘に対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人に入浴の有無、支援方法、時間など応じて支援している	週2～3回の入浴を午後に実施しているが、希望があれば毎日でも入浴できる。必要に応じ2～3人での介助を実施し、入浴を楽しんでもらっている。入浴を嫌がる場合は、スタッフを変えたり、タイミングを見て声掛けし無理強いはしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は活動的に過ごせるように、レクリエーションなどを取り入れ無理のない程度に活動的に過ごすことで昼夜逆転を防止している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員お薬の内容を把握し、在庫チェックなど間違いが無いように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器の片づけ、行事の時の挨拶等その方にとっての役割を皆で考えそれぞれに合った支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や、花見、ドライブなどできるだけ外に出ていく機会を作り参加している	日常的には敷地内の散歩をしている。花見・鶴見物・マラソン応援・文化祭・かかし祭り・ドライブ等へ出かけている。隣接老人保健施設との合同イベントでの外出も行っている。家族と墓参り・法事・外食等に出かける利用者もあり、外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必用な方には職員が付き添って買い物に行ったり、所持金の預かりを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方に家族がいる方には電話や手紙の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすでも十分に行き来できる空間とバリアフリーの玄関、季節ごとの掲示物や、中庭の花壇など季節が楽しめる造りになっている	中庭からの採光で明るい室内は、エアコンや加湿器で室内環境が快適に調節され、出窓で中庭に出て季節の花等を楽しむことができる。食堂とリビングのスペースが確保されており、壁には行事の写真や季節の作品・花が飾られ、利用が好みの場所でくつろげるようソファ等が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋は家族が面会に見えても十分な広さがあり、居間や食堂、前庭など利用者間で交流できる空間もある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花などそれぞれ快適に過ごせるように工夫されている	明るさと広さがある居室は、洗面台・ベッド・クローゼット・タンス・椅子が備えてあり、寝具はリースで清潔に保たれている。利用者の好み等で仏壇や置き時計・ケイタイ・化粧道具等を置いたり、写真や手作りカレンダーを飾って、本人が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリー、車いすでも出入りできるトイレの広さなど、その方の機能に合わせ安全面を配慮している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない